



転居された方は事務局 (svcf-admin@svcf.jp) まで転居先をお知らせください

## <第107回院内集会—福島第一原発における廃炉作業の最新状況—報告>

第 107 回院内集会は、10 月 21 日木曜日 11 時から、参院議員会館 102 会議室に、資源エネルギー庁（以下、エネ庁）、原子力損害賠償・廃炉等支援機構（以下、機構）、東京電力から 6 名の職員の方を講師にお招きし、「福島第一原発における廃炉作業の最新状況」について伺いました。行動隊からは 6 名が会場で、8 名が online で参加し、講師による講演後、予定の 13 時を超過して活発な質疑を展開しました。

前半の講演については、講師は用意された資料に沿って講演されたので、下記をご覧ください。

<http://svcf.jp/archives/7936>

なお講師を務められたのは、エネ庁が原子力発電所事故対策対応室室長補佐 佐藤 徹氏、機構が廃炉総括グループ執行役員 伊藤 浩行氏、東京電力がプロジェクトマネジメント室地域パートナーシップ推進 G グループマネージャー 斎藤 幹雄氏でした。

質疑は大きく分けて、<福島第一原発におけるトリチウム処理水の取り扱い>、<廃炉の姿と道筋>、<その他>をめぐって行われました。ここでは質疑の結果明らかになったことを中心に報告します。

### <福島第一原発におけるトリチウム処理水（以下、処理水）の取り扱い>

処理水は、総容量 1 万立方メートルのタンク群を 3 セット、放射能測定用の溜枘として用意し、ここでトリチウムを除く放射性核種が排出基準未満であることを確認したのちさらに福島第一原発沿岸の大量の海水で希釈し、新たに設置する海底トンネル内のパイプラインを通して沖合 1 キロメートルの放出口まで運ばれ海中に放出す

る計画だそうです。

放出後の海中での処理水の拡散については、シミュレーションにおいては拡散することが確認されているということです。また、放出点付近の海水、海生動植物の放射性物質濃度については定期的に測定し、パイプラインの新設による環境への影響は、これからアセスメントを実施し結果は公表されます。

さらに、固定された放出口からの長期にわたる海中への放出による海中での食物連鎖への影響を考えると、安全が確認された処理水を生活用水として再利用した方がいいのではないかという意見については、ご意見として承っておくということでした。

処理水の海中放出による「風評」被害への対応に関しては、福島県漁連をはじめとする多くの団体が現時点でも海中放出に反対していることが確認されました。「風評被害に寄り添う」という国の方針の割には、福島県以外の地域では「風評」被害に対応するキャンペーンを目にし耳にすることがほとんどないという指摘に対しては、広報活動についてさらに努力をするということでした。

### <廃炉の姿と道筋>

廃炉作業の現状は、使用済燃料、燃料デブリ、汚染水、固体廃棄物等のもつリスクの低減に努力を傾注しているところのことでした。例えば燃料デブリの取り出しについては、来年度 2 号機において少量の試験的取り出しを実施し、数年かけてその試験料を分析することでデブリの性状を確認し、その結果を得て、どのような方法で取

り出し規模を拡大していくかを絞っていくという段階で、いつ取り出しが完了するかは現時点では見通せていないということでした。

廃炉後の具体的姿（エンドステート）については、今後地元と丁寧な協議を重ねていく中で明らかにしていくそうです。

また、最長でも 30 年後には廃炉を完了するとしている現行の「中長期ロードマップ（以下、「ロードマップ）」の改訂については、「ロードマップ」は政府の所管であり、エネ庁や機構は直接関与できない。

機構が担当しており、今年度の改訂では固体廃棄物の処理を柱に加えた「技術戦力プラン」の見直しを積み重ねることにより間接的に反映させていくというスタンスが示されました。

### <その他>

9 月の特定原子力施設監視・評価検討会（以下、「検討会」）で明らかになった、放射性廃棄物の仮設集積場所への保管の長期化や、2 年前に確認されていた ALPS の HIC 排気フィルターの交換時の破損が、不適合として公表もされず、廃炉カンパニー上層部に伝わっていなかったというマネジメントの問題については、情報管理のあり方を今後改善していくということでした。

また、1 号機原子炉格納容器（以下、PCV）の注水量の低減による水位の低下が、2・3 号機のそれと比べて遅くなっている理由は、現在準備作業が進められている PCV 内部調査が、水中 ROV（遠隔操作型探査機）を用いた調査であるためだそうです。現在の福島第一原発に残っている事故発生時の東京電力社員の数については三分の二に満たないであろうという推定が示されました。

最後に、「ロードマップ」、機構提供の資料等では、廃炉作業の進捗状況と見通しをリスクグラフで示しているが、これでは使用済燃料・燃料デブリの取り出しといった大きな節目がないと進捗状況が分かりにくい。むしろ、これまで明らかにされてこなかった現在の福島第一原発の放射能の推

定総量（インベントリ）を明らかにし、節目ごとに、どれだけの部分が、非管理状態（事故時のままの状態）から管理下に移ったかということを示すことでステップバイステップの進捗状況が分かりやすくなるのではないかという意見に対しては、今後の参考にさせていただくということでした。

なお、エネ庁の佐藤氏から、現在の福島第一原発の放射能の推定総量（インベントリ）については、本年 3 月に開催された第 89 回「検討会」に原子力規制庁が提出した資料「東京電力福島第一原子力発電所の中期的リスクの低減目標マップの改訂について（第 2 回）」8 ページに掲載されているという貴重な情報をいただきました。

<https://www.nsr.go.jp/data/000346625.pdf>

この 8 ページを見ると、Cs-137 については、事故後の減衰を考慮した 2021 年 3 月 11 日時点で、総量 7260 PBq（1 PBq＝千兆ベクレル）、環境放出分が 12 PBq となっています。

2011 年 3 月に福島県を中心に降り注ぎ、いまだ 7 市町村にまたがり福島全県土の約 2.4 % を占める約 337 平方キロメートルの帰還困難区域、約 4 万人の避難者を生じせしめている放射性物質を



はじめ、これまでに環境に漏出した Cs-137 の 600 倍以上の Cs-137 が現在の福島第一原発に残っていることとなります。

さらに 6 ページには、「この他に Sr-90 について 36 PBq（プロセス主建屋及び濃縮廃液タンクエリア）、H-3 について 0.69 PBq（タンクエリア）存在する」とあります。

## ＜第 108 回院内集会報告＞

11月18日(木曜)、第108回院内集会をオンラインで開催しました。

12月以降の院内集会運営については、第106回院内集会「福島第一原子力発電所の廃炉と放射性廃棄物管理」(講師:柳原敏/福井大学特命教授)、第107回院内集会「福島第一原発における廃炉作業の最新状況」(講師:資源エネルギー庁、原子力損害賠償・廃炉等支援機構、東京電力)を受け、「廃炉」が被災地、被災者の生活回復とどのように関わり合うのかについて、毎週の連絡会議で討議を重ねてきました。

今回の院内集会の討議結果は、9月末以降の話し合いを以下のように集約したものです。

・「原発事故収束事業(除染、廃炉等)と被災

地、被災者の生活回復(元の住まいへの帰還、農作業回復等)」をテーマとして4~5回のシリーズ講演、討論集会を行う。

・先ず次回12月は、居住地が放射能汚染の「帰還困難区域」に指定され避難生活を送る原発事故被災者たちが、早期帰還の望みを達成するために行政(国、県等)と事故発生当事者(東京電力)に対して何を求めているか、廃炉等の事故収束事業の進展をどのように見ているかを、行動隊が設営するオンライン会議の場で語ってもらう。

・その次、年を越して2022年1月には行政等の側から、被災者、避難者の要望をどのように実現していくかを聞く。

### ……………三翁清談「観る将」……………

登場人物

安翁:本名 安藤博 将棋門外漢の会員

三段翁:本名 高橋斉 藤井聡太の署名のあるアマチュア段位免状取得を狙う会員

ヒイキ翁:本名 山田次郎 判官ビイキの会員

安翁



わが家近くの大型ドブ、真間川沿いの桜も、枯れ残りを見せて冬間近かを伝えています。

将棋の藤井聡太三冠が挑戦者決定リーグで羽生善治九段に勝利、間もなくの豊島将之を破って竜王となるか。

三段翁には、コロナの憂さをはるかに凌ぐ慶事続きでしょう。

三段翁

安翁にあらせられては、不得意の分野と思われた将棋についても、その現状を的確に把握しているようで、僭越ながら感服いたします。

わが「慶事」は今後も続きそうで、ネットでの観戦にも力が入ります。ネットの観戦では、棋士の能力を遥かに超えてしまったAIが、神のごとく「次の一手」を表示します。当然ながら多くの棋士は、その「神の一手」つまり最善手を見つけることはできませんが、藤井はかなりの確率でその一手を指します。

いまやAIとの一致率がいくら高くても藤井を疑う

者は誰もいません。むしろ、醍醐味は、藤井が「AIの最善手」を指さない時です。

当然、AIは藤井不利の評価を出しますが、AIが計算を深めると藤井の指し手の方が最善手と認め、AIが慌てて再評価します。

将棋ファンは藤井の「AI超え」「神の一手」と言って、我が事のように自慢しますが、私もその一人です。

深夜まで続く棋戦もあり、79歳の老体には相当堪えることです。

せめて夜の10時までには決着のつくことを期待する秋の夜長です。

藤井の登場で、将棋はわからなくても将棋を指している様子がたまらないという「観る将」と呼ばれる社会現象が生じました。

その藤井、竜王戦第4局で勝てば4連勝で竜王位獲得となります。

竜王になると、アマチュアの段位認定免状に、署名することが任務に入ります。

私は15年くらい前に、段位認定の問題に挑戦し、三段位に相当すると連盟から連絡がありました。認定料が高額であったので、妻に相談するまでもなく断念しました。

いま、認定状に「藤井聡太」の署名があるなら、三

途の川を渡る手形として免状獲得に再挑戦してみようかな、と思い始めています。

### ヒイキ翁

横から失礼します！

三段翁の藤井ヒイキは分かるんです、颯爽と現れた若武者。

けどどうしても浪花節と言うか判官ヒイキと言うか、この局面に立つ豊島に思わず寄り添ってしまいそう。もし三段翁が豊島へのこともお書きいただければと。

### 三段翁

ヒイキ翁は「三月のライオン」と言う将棋のアニメを観たことがおありでしょうか。

アニメではトップのモデルは若かりし頃の羽生だろうと思っていました。いま、ヒイキ翁から豊島への誘いがあり、突如、そうかあれは羽生ではなく豊島だったのではと思いました。立ち居振る舞いがどうしても羽生では違和感があったので、豊島で納得です。

また、若く苦悩しながらも活躍する主人公の高校生のモデルは誰か思いも及びませんでした。

今では誰でも藤井と思うが、当時は存在しなかったので藤井の登場を予言した作者の想像力にはホント敬服します。

これから、お寺の行事があり出かけます。ヒイキ翁、ここまででお赦しを。

### 安翁

将棋門外漢のわたしでさえがこの現象にどっぷり浸かっています。もっとも棋士の「勝負メシ」がもっぱらの関心事。



10月31日、いわき市での三局目の藤井聡太の勝負メシ「いわきの魚とじゅうねんの天ざるそば」、福島

行動の帰りにでも食べに行ってみたくと思います。

### 三段翁

おかげさまで、藤井が4連勝で「竜王位」を奪取しました。

各AIが推奨する候補にない手を藤井が指し、一挙に藤井不利の評価値になったが、結局、藤井が正しかったようです。私もウハウハです。

藤井聡太自署の免状獲得を目指して再挑戦してみます。

誰かに聞くなどする不正はいくらでもできるシステムですが、聡太に不正の免状に自署させては三途の川も渡れず、地獄の閻魔も我がおつかあも安翁、ヒイキ翁も、何より聡太が許してくれない。だから、前回同様、当然自力で。

## ..... 11~12月の行動計画 .....

### <第109回院内集会>

日時：12月16日（木）11：00～13：00（予定）

会場：オンライン(Zoom)

演題：「原発事故収束事業(除染、廃炉等)と被災地/者の生活回復」—避難中の被災者は、行政と東京電力による廃炉等の事故収束事業の進展をどのように見ているか、また何を求めるか。

講師：避難中の被災者他

<SVCF通信141号> 12月22日（水）発行予定

<年末年始の事務所閉鎖期間>

12月25日（土）～1月6日（木）

<連絡会議>（右地図参照）

以下の各金曜日10:30から淡路町事務所

11月26日、12月3日、10日、17日、24日

